

■ 竜王の新時代に向けて共に「成長する」
緑豊かな公園にするための『4つの柱』

1.それぞれの『やりたい』がかなう公園

遊びたい、歩きたい、体験したい
お互いの自由を尊重しつつ、それぞれが楽しめる公園にします

2.だれにとっても『いばしょ』のある公園

1人でも仲間でも、多世代が訪れたくなる、楽しめる
だれもが居場所を見つけられる公園にします

3.あたらしい『つながり』をはぐくむ公園

こどもからお年寄りまで、集まり、参加し、支え合う
人とのつながり、ふれあいのきっかけ・拠点となる公園にします

4.さいがいに『かつやく』できる公園

平時は町民の憩いの場、災害時には避難場所として
防災機能を備えた、災害にも強い公園にします

①遊び・感性育む あそびの広場

- ・園児や児童が保護者、友達と利用することを想定し、駐車場に近い北側に遊具広場を設けます。
- ・円形のあそびの広場は、周囲から見守りやすく、インクルーシブ遊具やシンボル性のある遊具を設置し、多様な年齢と遊びを許容するアイテム配置とします。



③個性を持たせた 小さな広場

【築山広場】

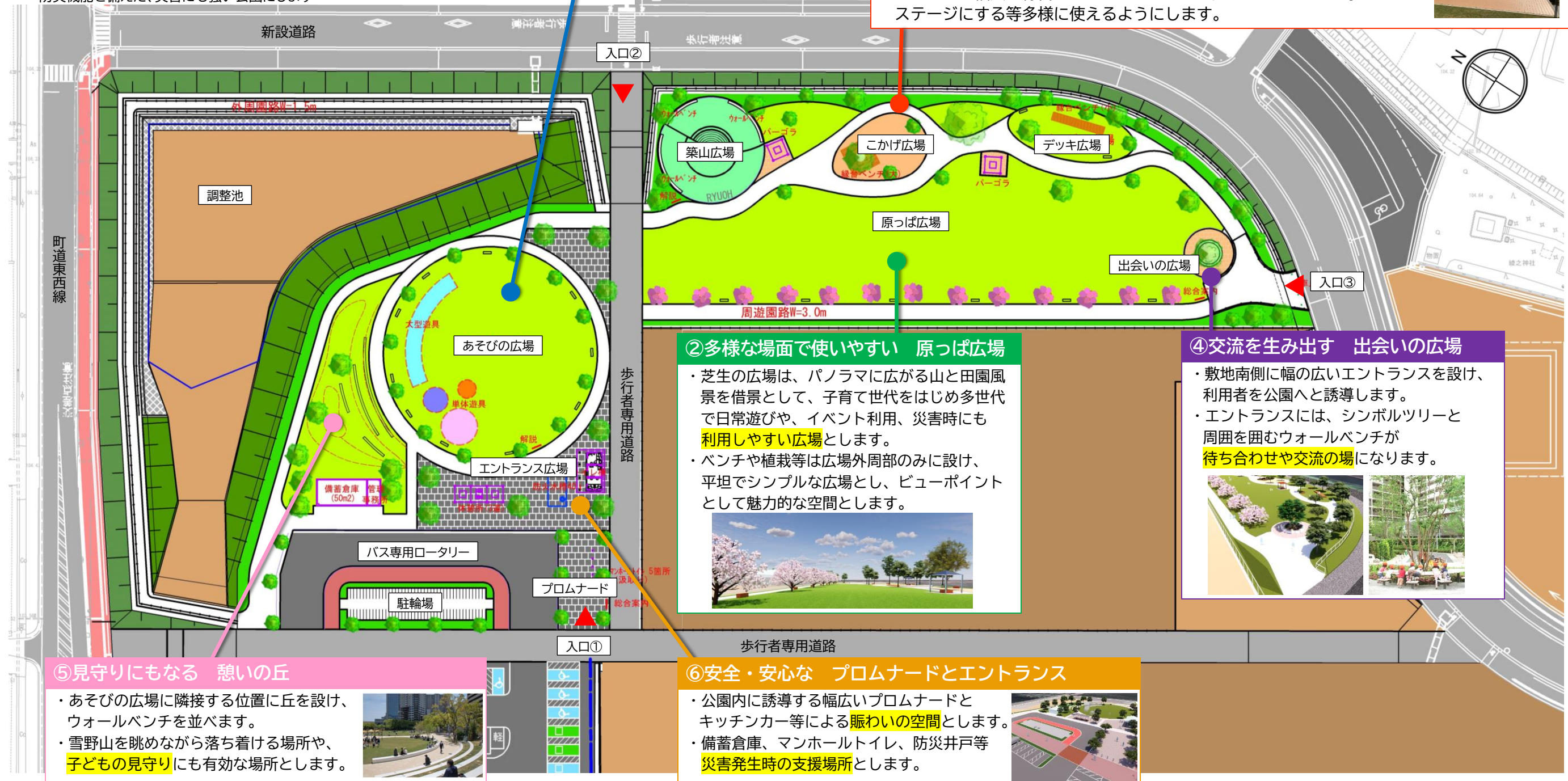
- ・地形もあそびのアイテムとして、人工芝の築山は、幼児が全身を使って遊べるような、もう一つのあそび場。周囲に設置するウォールベンチは見守る保護者の休憩場所であり、幼児が外に出ていけないような壁代わりとしても機能します。

【こかげ広場】

- ・大きなケヤキの樹冠は日陰を提供し、その下にある大きな縁台ベンチはひとりで落ち着いたり、地域の人々が集まって交流できる魅力的なスペースになります。

【デッキ広場】

- ・どんぐりのなる木を植え、遊具だけではなく自然の遊びを体験できるようにし、幅広い縁台ベンチでは、その上で遊べて、イベント時にはステージにする等多様に使えるようにします。



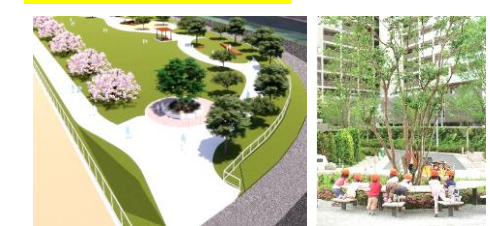
②多様な場面で使いやすい 原っぱ広場

- ・芝生の広場は、パノラマに広がる山と田園風景を借景として、子育て世代をはじめ多世代で日常遊びや、イベント利用、災害時にも利用しやすい広場とします。
- ・ベンチや植栽等は広場外周部のみに設け、平坦でシンプルな広場とし、ビューポイントとして魅力的な空間とします。



④交流を生み出す 出会うの広場

- ・敷地南側に幅の広いエントランスを設け、利用者を公園へと誘導します。
- ・エントランスには、シンボルツリーと周囲を囲むウォールベンチが待ち合わせや交流の場になります。



⑤見守りにもなる 憩いの丘

- ・あそびの広場に隣接する位置に丘を設け、ウォールベンチを並べます。
- ・雪野山を眺めながら落ち着ける場所や、子どもの見守りにも有効な場所とします。



⑥安全・安心な プロムナードとエントランス

- ・公園内に誘導する幅広いプロムナードとキッチンカー等による賑わいの空間とします。
- ・備蓄倉庫、マンホールトイレ、防災井戸等災害発生時の支援場所とします。

